

開校年度	2025年度	学科	美容科
科目名	化粧品化学Ⅰ	実務経験のある教員等の授業	-
授業時間	33時間	履修期	1年次
担当教員	亀井 光佐		
授業目的	化粧品の成り立ちや原料について、その定義、社会的意義や特性、法定な根拠、製剤の安定性も含めた安全性について学ぶ。また、美容業の実務において使用されるシャンプー剤やパーマ剤に代表される化粧品の効能とその成分について、特徴と危険性を学ぶ。		
到達目標	美容師国家試験(筆記)の合格を最終目的とし、「化粧品化学」領域の得点を目標とする。		
授業方法	講義		

	授業計画	授業内容
第1回	第1編 化粧品総論	第1章 化粧品総論
第2回		化粧品とは
第3回		化粧品と造形、基本的な使用プロセス
第4回		第2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと
第5回		化粧品の使用による症状、化粧品の定義と法規制
第6回		化粧品の安全性と安定性
第7回		第3章 化粧品の成り立ち
第8回		第3章 化粧品の成り立ち
第9回		水と親水性溶媒
第10回		水と親水性溶媒
第11回		油性原料
第12回		油性原料
第13回		界面活性剤
第14回		界面活性剤
第15回	前期試験	
第16回	第1編 化粧品総論	第3章 化粧品の成り立ち
第17回		高分子化合物
第18回		高分子化合物
第19回		色材
第20回		色材
第21回		香料
第22回		香料
第23回		製品を安定させる配合原料
第24回		製品を安定させる配合原料
第25回		その他の機能性配合原料
第26回	第2編 化粧品各論	第1章 スキンケア製品
第27回		化粧品の効果と使用プロセス
第28回		クレンジング用化粧品

第29回		クレンジング用香粧品
第30回		コンディショニング用香粧品
第31回		トリートメント用香粧品
第32回	1年生後期試験	
第33回	第2編 香粧品各論	第2章 メイクアップ製品 メイクアップ製品の種類と剤形
第34回		ベースメイクアップ香粧品

評価方法	出席状況80%以上が単位取得の前提となる。 試験(定期試験、レポート)を総合的に評価、60点以上で単位認定。
------	---

成績評価	出席	10%	定期試験	80%
	小テスト	%	レポート	10%

開校年度	2025年度	学科	美容科
科目名	化粧品化学Ⅱ	実務経験のある教員等の授業	-
授業時間	26時間	履修期	2年次
担当教員	亀井 美佐		
授業目的	化粧品の成り立ちや原料について、その定義、社会的意義や特性、法定な根拠、製剤の安定性も含めた安全性について学ぶ。また、美容業の実務において使用されるシャンプー剤やパーマ剤に代表される化粧品の効能とその成分について、特徴と危険性を学ぶ。		
到達目標	美容師国家試験(筆記)の合格を最終目的とし、「化粧品化学」領域の得点を目標とする。		

	授業計画	授業内容
第1回	第2編 化粧品各論	ポイントメイクアップ化粧品
第2回		アイメイクアップ製品 まつ毛ケア製品
第3回		ネイルメイクアップ製品、ネイルケア製品
第4回		第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ
第5回		スカルプケア製品
第6回		ヘアクレンジング用化粧品
第7回		ヘアコンディショニング用化粧品
第8回		ヘアスタイリング料
第9回	前期試験	
第10回	第2編 化粧品各論	第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ
第11回		スカルプケア製品
第12回		パーマ剤
第13回		ヘアカラー製品
第14回		スカルプケア製品
第15回	後期試験	
第16回	総復習	ワークブックを活用した総復習
第17回		ワークブックを活用した総復習
第18回		ワークブックを活用した総復習
第19回		ワークブックを活用した総復習
第20回		ワークブックを活用した総復習
第21回	国試対策	過去問を活用した国試対策講座
第22回		過去問を活用した国試対策講座
第23回		過去問を活用した国試対策講座
第24回		過去問を活用した国試対策講座
第25回		過去問を活用した国試対策講座
第26回		過去問を活用した国試対策講座
第27回		過去問を活用した国試対策講座

評価方法	出席状況80%以上が単位取得の前提となる。 試験(定期試験、レポート)を総合的に評価、60点以上で単位認定。
------	---

成績評価	出席	10%	定期試験	80%
	小テスト	%	レポート	10%